

- 1 会 議 名 議会基本条例推進協議会
- 2 日 時 令和3年4月20日（火）
午後1時30分から午後2時50分まで
- 3 場 所 第2・第3委員会室
- 4 出席議員 15名
- 5 欠席議員 なし
- 6 事務局出席者 議会事務局長 丹羽至、同主任 高野真理子
- 7 会長あいさつ
- 8 報告事項

（1）各チームの現況報告について

I C Tチーム長 片岡議員：4月8日に事務局から、交通安全の街頭指導の日程をメールで配信していただいた。レターケースに入れていたものを可能な範囲でこういった形にしていきたい。意見等あれば聞かせてほしい。

2点目として、先程の全員協議会で第1次実施計画が示されたが、委員会室のマイクシステムの更新事業は、令和5年度に計上されている。現在の有線マイクシステムを同等のものに更新するという事で、マイクユニット30台分の見積もり。

須藤副会長：事務局が事務文書をメールで送信するようになったが、パスワードを入力しないといけないのか。パスワードは数日で消えてしまうのか。

I C Tチーム長 片岡議員：消えてしまうということはない。パスワードに抛る解凍方式でしか外部に送信できない規定がある。

市民参加チーム長 宮川議員：50周年記念事業について、HP上などで市民による投票で事業を決定することを前提に話し合いを始めたが、チーム会議では一旦、当協議会に差し戻したいという結論に至った。経緯としては、講演会や子ども議会、女性議会、犬山市で行っている議場でのフリースピーチ、豊橋市で実施している子どもを対象にした議会クイズ、議場コンサート等を軸に、ボリュームアップしてHP上などに載せたらどうかと話し合ったが、議会改革における市民参加の本来の位置付けを考え、どの様に議会をアピールするのか、市民や子ども達に活動を理解してもらうのか、その軸を外しては意味がない。結論としては、子ども議会の開催を軸として、議会のクイズなどできないか。具体的な内容までは至っていない。市民に提示するに当たって、我々が中身を詰めていない状態で示してもイメージし難いだろうから、市民参加チームとしては、あえて絞るならば、子どもたちに議会の在り方や活動、身近なものであることのアピール、そういう位置づけでやってはどうか、となった。時期的には、議会日より8

月号に掲載して、準備期間を設けると 11 月初旬が妥当か。この後の協議事項で、チームのそれぞれの思いもあるであろうから補足していただき、推進協議会の中で望ましいと思われる案があれば、それに合わせて具体的な提案を出来るようにしていきたい。

鬼頭会長：後ほど、協議事項の議題として取り扱う。

B C P チーム長 大野議員：議会運営委員会において、5 月 1 日施行と決定した。まだ修正箇所があったので、校正中。来週中にも配付する。

(2) その他
特になし。

9 協議事項

(1) 議会サポーターとの意見交換会の役割分担について

4 月 24 日 (土) 午前 10 時から、第 2 ・第 3 委員会室において開催。

役割分担は以下の通り。

司会：大野

記録：木村

検証シートの説明：榊谷議員 (議会基本条例検証特別委員会委員長)

写真：事務局

1 階→8 階への誘導：宮川、事務局

(2) 議会サポーターとの意見交換会の日程について

(3) 議会サポーター説明会の日程について

鬼頭会長：今期サポーターとの最後の意見交換会を 7 月に実施したい。また、次期サポーター向けの説明会も 7 月に 2 回実施する。

第 3 期サポーターとの意見交換会：7 月 3 日 (土) 午前 10 時から

第 4 期サポーター向け説明会：① 7 月 14 日 (水) 午後 7 時から

② 7 月 17 日 (土) 午前 10 時から。

宮川議員：過去、この説明会に参加しなかった方の傾向は、子育て世代の方や、学生などである。SNS を利用した説明会も今後は加えたらどうか。

鬼頭会長：オンラインであれば、説明員として出席する議員も少数で済み、将来的にはオンラインでの実施も検討しなくてはならないが、今回は対面での実施とする。説明会はいずれかの回に参加を。

(4) 議会報告会及び意見交換会実施要綱の見直しについて

鬼頭会長：最近、改めたばかりだが、この際、しっかり改正したいと議長から提案があった。

議長 梅村議員：前は第3条の所で、定例会の前にもやれるように変更した。第5条の役割の人数、第10条の議員派遣は公務扱いとする等も変更した。しかし他にも気になる点があり、例えば資料として議会だよりを使用していない等、この際見直しをするものである。資料を基に説明。

堀議員：第2条の定義で、「市議会として」は不要ではないか。また、第2条第2項の冒頭「市議会が」を削除したほうが分かりやすい。また、句点で繋がず、「又は」のほうがよい。「その意見を議会活動等に・・・」の文章がわかりにくい。

榊谷議員：タイトルから議会報告会と意見交換会を削除するのに、第2条では列記するのか。

議長 梅村議員：ふれあいトークが議会報告会と意見交換会の総称である点に変わらないため。

大野議員：記録書の市議会だよりへの掲載が削除されているが、議会だよりへQRコードを載せておけば、正式なものに（掲載したこと）になる。

議長 梅村議員：そのような取扱いでいいものか、例規担当に確認してみる。

黒川議員：第9条の「市政に対する意見、要望等」について、議会に対する意見、要望、場合によっては苦情が過去にもあり、今後もあると思うが、その取扱いはどうするのか、明らかにすべき。

鬼頭会長：「市政」だけではなく、「議会」も付け加えた方がよいとの意見か。今回は案として提示したが、他にも訂正等あれば、次回、引き続き検討議題とする。

（５）議会サポーターへの謝礼の取扱いについて

鬼頭会長：今回、途中退任した方が謝礼を辞退された。途中で退任を希望された場合の取扱いについて、期間を区切って、例えば半年以上活動されたらお渡しするとの規定を作るか、委嘱した人には全員お渡しする今のやり方でいいか、意見を聞きたい。

大野議員：謝礼の受取を辞退できるという規定はあるのか。

鬼頭会長：要綱には、退任については規定してある。

大野議員：これまでも謝礼を辞退した人はいるので、明記するかしないかだけだと思う。

鬼頭会長：謝礼については辞退の規定はない。最後の意見交換会でお渡しするので、欠席されると受け取りに来てもらうのであるが、来なかった人もいる。前年度の残りは次年度に繰り越すと事務局から聞いている。現時点

で重大な問題は起きていないので、改定は必要ないというのであれば現行のままでよい。

(意見なし)

鬼頭会長：では現行のままとする。

(6) 市制 50 周年記念事業について

鬼頭会長：先ほど宮川チーム長から報告があった件。

市民参加チーム長 宮川議員：チームの話し合いの中心となったのは、次世代を担う子ども達の意見や夢をどうやって吸い上げるのか、という点。仮に子ども議会を軸として、クイズや議場の活動説明に持って行くのであれば、我々が内容まで決めてから募集を掛けたほうがよいのではないかと、この結論に達した。市民からHPでご意見をいただいて、そこから50周年記念事業を組み上げようというのが、前回の協議会で決まったことであるが、チーム会議では、我々が責任を持つべきとの結論に至った。どのように進めるのかを協議会でもう一度話し合っていたきたい。

鬼頭会長：チーム会議の結果は、項目を絞って議会内でまず協議をしてからということか。HPに挙げるかどうかはこれから考えていくということでしょうか。

市民参加チーム長 宮川議員：HPというよりも、8月の議会だよりに盛り込んでいくことを考えている。仮に子どもを対象にするならばどうアピールするか、学校側にお願いするのは無理があると思われるが、こちらでチラシを作成し、学校で配らせてもらえないか、投げかけるくらいはいいと思う。議会だよりの8月発行に間に合うように詰めていければいいと考えている。

黒川議員：子ども議会の趣旨を分かってもらうのは大変なことであると思うし、子どもを送り出す側にしてみればハードルが高いのではないかと。教育委員会に事前にリサーチしてからでないと、子どもを政治的な場に出すわけにはいかないという保護者もいるはずだし、その前に各学校長がどう判断されるのか。事前に話し合って、受け入れていただけるということであれば、具体化に踏み込める。その点はチーム会議で話し合われているか。

市民参加チーム長 宮川議員：政治的イデオロギーに踏み込む可能性があるとの議論はあった。教育委員会に事前に話をしようかとも思ったが、まずは本協議会で方向性を決めていただいてから、教育委員会に投げかけ、交渉に臨みたいと私としては考えている。

黒川議員：小中学生や高校生を対象に子ども議会を行っている先例では、かなり綿密に調整していて、事前に、こういった社会にしてほしいというよ

うな希望や夢を、我々も中に入って話をし、その上で子ども議会の場において具体的な提案をしていただくという、中身のあるもの。形式的に議場に集まり、議会側が一通り説明をし、質問を受ける形もいいかもしれないが、やる以上は中身のあるものにしていかなないと、理解は得られにくいと思う。そこの所が見えてこない。

市民参加チーム長 宮川議員：同意見である。子ども議会を開くことが目的ではない。可児市議会のように、小さく集まり話し合っていく必要性もあるであろうし、昨日のチーム会議では、学校のルールをどう思うか、どう改善すればもっと学校生活が送りやすいかという身近なところに置き替え話を進めていく（という案が出た）。我々が何を求めるかより、主体は子ども達で、子どもたちが何を求めて、我々がどう答えていけるか。運営のあり方を考える必要があると思う。小中学生を対象にという表現をしたが、高校生にもサポートで入ってもらってもいい。ゴールとしてこの日にこれをする、ということよりも、プロセスを作っていくことにより、政治参加というのか、自分たちの意見がどのように組み立てられ、どう具現化するのかを見せるのも、この 50 周年に向けての事業かと思う。昨日聞いた話で、小学校の学級委員の選出にあたり、自発的に手を挙げ、目指す学級運営を述べた上で行うという方法をとっているようで、岩倉市の小学生のレベルの高さに驚いた。そのような素養が身につけているのであれば、我々が危惧するものではなく、筋道を通せば理解してもらえるのではと考え、こういう提案に至った。

榊谷議員：昨日チーム会議で話したのは、イエスノー形式の議会クイズを遊びながらやれたらというもので、目的は市議会を身近に感じてもらうことや、二代表制が何らかの形でわかったらとか、岩倉市はこども条例があるから、自分たちのことは自分たちで決めるというような、子どもたちの意思を尊重するということで、校則とは何か、制服をどう考えるのか、楽しんでやれたらという話であった。

堀議員：それをイントロダクションとして、2 部構成で、1 部はイエスノークイズにして楽しんで、ハードルを下げる。イデオロギー的な所に踏み込むという様な話はあまり出ていなかった。敷居を下げて、子ども達が楽しんで、興味を持ってくれるような取り組みにして、意見を集約してということではなく、将来議員になってみたいと思える様な、自分たちの町は自分たちが決めるという意識を楽しんで醸成する、主権者教育に結びつく取り組みとしての子ども議会、という話し合いであった。

関戸議員：岩倉市議会として、50 周年記念事業を実施することで、何を達成したいのか。主権者教育が目的、ゴールに当たるのではないかとチーム

内の結論に達し、そういう目標でよいか本協議会でまず確認をしよう、という話だった。

大野議員：中学生だと授業の一環であれば学校は協力してくれるが、新たに別枠で依頼しようとする、授業カリキュラムの観点から、もう4月下旬なので難しいと思う。イエスノークイズをやるならば、小学2年生が（遠足に）来るときにやればいいことで、主権者教育とは少し違うと思うが、施設見学に来た子どもたちに対してやるのは、授業の一環で来るので可能だと思う。今の授業カリキュラムを知ったうえで、一緒にやることを提言するのは出来るであろうが、そうでないと難しい。

市民参加チーム長 宮川議員：授業カリキュラムの一環で実施してもらうことは考えていない。周知に関しては、学校や教育委員会の協力は必要だが、学校行事のない休日にやるのが基本。市域全体の子ども達に声をかけたとしても、人数をどう絞るのか、場所についても議場ありきとは考えていないので、内容も具体的に組まないといけない。

井上議員：敷居を低くして、議会を身近に感じてもらう事を目的に、イエスノークイズを行い、それから子ども議会に繋げていけたらとの話であった。クイズならば募集するときに、子どもから意見を出してもらい、それに対する〇×、意見があれば言ってもらい、そのような形にすると身近な事から議会というものは皆の総意ということを学ぶことができる。最初はいわくら塾のこども塾が主体であったのが、諸事情により、教育委員会や学校の協力が必要。1年前であればもう少し見通しを立ててやれたと思うが、間に合わない気がしている。

市民参加チーム長 宮川議員：子ども議会がゴールではなく、子ども達の意見をどう集約するのかを主眼として、50周年に拘らない話し合いの場を作る事でも構わない。その先に、来年度中に成果物として子ども議会、クイズ形式でもいいが、そこまで持って行けば良く、50周年記念だから子ども議会を開くことに固執する必要は無く、素養を作る事が大切。

水野議員：学校も年間のカリキュラムがあるだろうし、コロナウイルスも変異株が猛威を振るう中で、仮に実施する時には収束していたとしても、8月の議会だよりもに掲載する時点で現状と変わらないのであれば、ご批判もあるだろう。リモート開催なども検討できないか。

市民参加チーム長 宮川議員：募集の際の書き方次第である。やれない理由を積み重ねたら何も出来ないから、どうしたら出来るかを考えなくては行けない。

鬼頭会長：50周年事業を今年度実施することを前提に検討してきたが、チームから提案のあった子ども議会の実施に向けて検討を進めていくか、あ

るいは実施しないのか。

梅村議員：次回の市民参加チーム会議はいつか。

市民参加チーム長 宮川議員：未定。タイムリミットがあることは認識している。子ども議会を主軸とする行事、という結論が出れば、次回協議会ではもっと具体的な提案が出来るようにする。

梅村議員：では、次の協議会での提案を聞いて判断したらいいと思う。現時点で判断は難しい。

市民参加チーム長 宮川議員：前回の協議会では、HPで市民から意見を募ってはどうかという話だったので、方向性がこれでいいか確認したい。

鬼頭会長：チームから提案のあった、子ども議会を中心に進めていくという方向でいいか。

梅村議員：広く意見を募集しても、なかなか意見が出るものではないし、出たとしても実現可能性はわからないので、議会で主体的に決めた方がいいと思う。

鬼頭会長：異議がないようなので、もう一度市民参加チームで意見をまとめて、教育委員会にも聞いてもらい、次回、報告をお願いする。

（７）その他

B C P チーム長 大野議員：災害緊急ダイヤルの練習と、普通救命講習を全議員で受講したい。

１０ その他

特になし。